

家内の事故

あいかふじらう
愛甲次郎

去る九月二十三日二時頃玄關のあたりにて物音し、急ぎ駆付けたるに家内階段の下に伏せ居たり。不自然なる姿勢を匡さんと手をかすに痛みを訴ふればそれも適はず。直ちに救急車を呼び近所の病院へ走る。休日なれど幸にも外科醫當直にてX線撮影の上大腿骨折と診断即日入院となる。僅か三段許りの踏外しなれど骨粗鬆症の気味あれば大事に至りたるなるべし。

翌日は整形外科の擔當醫不在とて、水曜日子息と共に擔當醫を訪れ容態の説明を聴く。X線の映像を見るに損傷せる大腿骨は骨盤を突き抜けたり。醫師の言ふやう、大腿骨の頭部を切除し人工關節を取付ける手術を施すが通常の措置なり。當院にても年六十例程のありふれたる手術にはあれど四割程度の生死に係るリスクあり。骨の出血の對處著しく困難なること、餘病併發の惧れ高き事の故なり。家族の同意あらば手術は明日執り行ふべし。一週間異變なければ後はリハビリ次第と。病名は大腿骨頸部骨折の由。

手術當日は家内の妹を含む家族總出の見舞となりぬ。経過は良好にして、醫師によれば手術には一時間を豫想したるも實際には二十四分にて終了せる由。意識も既に明瞭にして血色も輸血の所爲にや悪しからず。

これまで二人暮らしにて家内に全てを任せられたれば、一變せる生活に途惑ふばかりなり。朝晩の食事の支度、掃除、洗濯、塵芥出し、買物と枚擧に違なく、關係先の電話番号を探し求めむるも一仕事なり。現在の病院は二、三週間にて退院と相成るべくも続いてリハビリ専門の病院に轉院とのこと、夫婦本來の生活に立ち戻るは年の瀬も間近き頃か。

(令和元年十月十二日受附)

